

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2015年度達成度評価表 分野:社会貢献

		評価	理由
中期計画	1 地域連携ネットワークの確立と強化		
実行計画	(1)「社会との連携・協力に関する方針」を策定する。	B	各学部・研究科個々でアクション起こしており、それなりの成果があがっている。社会連携部をコアとした全学的な取り組みが色濃く出ればなお良いのではないかと。
	(2) 地域と本学の安全を保持するために地域との連絡協議を活発化する。	B	防災力ならびに危機管理能力の向上については地道に活動を行っている。社会防災学科との連携も視野に入れればどうか。
	(3) 産学官連携、大学間連携、高大連携など、さまざまな連携事業を発展・拡大させる。	B	高大連携について、附属高等学校との連携も含め、新たな課題として進めることが望まれる。
	(4) 地域住民の参加による大学と地域の交流の充実を図る。	A	地域住民等と大学の交流は、着実な歩みを見せている。今後更なる発展を期待する。
	(5) 地域の教育機関等への支援体制を確立する。	—	今年度の計画は無い。
	(6) 大学施設の地域開放を進める。	B	図書館の一般開放に関連する施策のみ中期行動計画として実施する事となったが、地域住民がより利用しやすくなるよう工夫を図ることが望まれる。
中期計画	2 教育研究成果の社会への還元		
実行計画	(1) 社会が求める生涯学習のあり方について検討する。	B	一般向け有料講座を新規に5講座実施した。これを機に、成果をはかりながら、さらなる充実が望まれる。
	(2) 土曜公開講座・グリーンフェスティバルのあり方について検討する。	B	計画立案時の問題点は、内容がマンネリ化しており、受講者・参加者も固定化しているとのことだが、アンケート結果からどのように判断しているのか。中期行動計画期間の中間点でもあるので、中間評価が望まれる。
	(3) 学術講演会等の充実を図る。	—	今年度の計画は無い。
	(4) 神戸学院ブランド商品・食品の開発、販売について検討する。	—	今年度の計画は無い。
中期計画	3 ボランティア活動の推進と支援体制の充実		
実行計画	(1) ボランティア活動参加者の増加策を強化する。	A	2014年度に開設した現代社会学部社会防災学科では、ボランティア活動参加率は71.9%という高い参加率を示しており、全学でも28.1%と統計上は過去最高の値となっている。
	(2) ボランティア活動への支援策を強化する。	A	KPCのボランティア活動支援室の利用時間を延長するなど環境を整えている。その結果、着実に効果をあげている。今後も継続的に取り組みを充実することが望まれる。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る